



ごあいさつ



代表理事組合長
山内 清久

平素は、JAめぐみの各事業に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、農業・JAを取り巻く環境は、TPP11など国際貿易交渉が進められる中、国内においても、農地制度の見直しや食品流通構造改革の追加など、重点課題が提起されております。

このような環境のもと、平成29年度は、3カ年計画の中間年として、基本方針である『創意工夫による自己改革の実施』に基づき、「農業所得増大へ向けた取組強化」、「地域の活性化に向けた協同活動の展開」、「協同活動の実践を支える組織経営基盤の確立」に全力で取り組みました。

具体的には、新たなブランド農産物の生産販売の確立のために大根・トマトなどの栽培面積の拡大を推進した一方、直売所を中心とした地産地消の拡大に努めました。また、平成29年4月には水田農業担い手協議会を発足し、米のJA買取販売を本格的に進めることができ、16,300俵余の実績となりました。

地域の活性化に向けては、集落農業ビジョンの合意促進や組織の法人化支援、移動金融店舗「めぐライナー」の導入、管内小学校等と連携した食農活動や女性部活動支援、地域医療施設と行った福祉用具の提供など、さまざまな活動を展開しました。

平成30年度は、3カ年計画の最終年度であるとともに、政府の農協改革に対応した自己改革を着実に実践する重要な年度となります。役職員が一丸となってJAの自己改革を実践して参る所存でありますので、なお一層のご支援を心よりお願い申し上げます。

ここに、当JAの業務内容・事業活動の状況等を取りまとめた『ディスクロージャー誌2018』を発行させていただきますので、ご一読いただき、ご理解を深めていただきますとともに、今後とも一層のご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、組合員・地域の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成30年7月